

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	日本語表現
科目基礎情報						
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電子機械工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	1		
教科書/教材	『新編マスター日本語表現』（遠藤郁子他著・暁印書館）／『科学哲学への招待』（野家啓一著・筑摩書房）					
担当教員	團野 光晴					
到達目標						
1. 敬語、漢字、ことわざ、術語外来語を自在に使いこなすことができる。 2. 話し言葉と書き言葉を使い分けることができる。 3. 会話及び明確な文章で適切なコミュニケーションが取れる。 4. 文章の要約ができる。 5. 文章の構成法を踏まえた文章作成ができる。 6. 資料を分析し、文章化できる。 7. レジюмеに基づく口頭発表ができる。 8. 口頭発表聴講を踏まえて論理的な批評文を書ける。 9. 批評意識を持って読書することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 到達目標1・2・3	基本的な日本語の表記・会話の知識を習得し、自由に運用できる。		基本的な日本語の表記・会話の知識を習得し、理解できる。		基本的な日本語の表記・会話の知識を十分習得していない。	
評価項目2 到達目標4・5・6	文章や資料を分析し・要約・文章化した上で、自分なりの見解を論理立てて述べる事が出来る。		文章や資料を分析し・論理的に要約・文章化した上で、自分なりの感想を述べる事が出来る。		文章や資料の分析・論理的要約が十分に出来ず、的確な見解を述べられない。	
評価項目3 到達目標3・7・8・9	分析対象の文章を深く読み込み、レジюмеに的確に要約した上で、独創的な意見を論理的に述べ、それについて他者と創造的な討論が出来る。また他者の発表について適切かつ独創的な意見を述べる事が出来る。		分析対象の文章を理解し、レジюмеに要約した上で、自分なりの見解・感想を述べ、それについて他者と討論が出来る。また他者の発表について意見・感想を述べる事が出来る。		分析対象となる文章を読みこなせず、レジюмеによる要約に不十分なところがあり、かつ自分の見解を独創的な形で述べる事が出来ない。また他者の発表について意見・感想を述べる事が出来ない。	
学科の到達目標項目との関係						
創造工学プログラム E1						
教育方法等						
概要	日本語による文章力、対話・討議能力等、技術者として必要なコミュニケーション能力を身につけさせる。これにより、チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性を備え、論理的な記述・発表ができる技術者を養成することを目的とする。そのため、論理内容が明白な論説文等の技術文章や国際的日本人として必要な伝統的な文章等の理解の上に、対話の進め方、討議の進め方、文章の創作の実践によって総合的に日本語表現を実現する。					
授業の進め方・方法	【授業の進め方】前半は日本語表現ワークブックを用いた演習を踏まえ、インターンシップエントリーシートを作成する。後半は課題図書について読書報告をレジюмеにまとめ、これに基づく口頭発表と議論、更に発表聴講感想の作成を行う。また小テストを行い、漢字・敬語・表記等基本的な日本語表現に関する知識を習得する。 【評価方法・基準】成績評価の基準として60点以上を合格とする。上記の授業中取り組みについてそれぞれ評価した上、成果確認のため前期末試験を実施する。演習課題・口頭発表・レポート等（50%）、試験（筆記・小テスト）（50%）として評価する。					
注意点	文章表現・オーラルコミュニケーションに関する作法や知識をマスターできるよう心がけること。質問や発言などを特に積極的に行うこと。 課題に応じて、その都度レポート・文書等の作品を仕上げること。 毎時の授業における、演習、文章作成作業等を確実に行うこと。					
テスト						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 話し言葉と書き言葉 明快な文章を書く（1）		話し言葉と書き言葉を区別し、意味の明解な文章を書くことが出来る。	
		2週	明快な文章を書く（2）		就職・被修飾語の対応などに気をつけ、意味の明解な文章を書くことが出来る。	
		3週	要約の力をつける（1）		課題文章について、要点を押さえて要約することが出来る。	
		4週	要約の力をつける（2）		比較的に長い文章を、簡潔かつ的確に要約することが出来る。	
		5週	文章の構成法を学ぶ		三段論法、4段論法について理解し、論理的な読解と文章作成が出来る。	
		6週	資料を分析し、文章化する（1）		課題の文章を分析し、内容について評価して文章化することが出来る。	
		7週	資料を分析し、文章化する（2） 敬語表現		複数の文章を比較・分析し、批評を文章化して作成できる。	
		8週	口頭発表・レポート作成（1）		課題図書の指定箇所について分析・評価した結果をレジюмеにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。	
	2ndQ	9週	口頭発表・レポート作成（2）		課題図書の指定箇所について分析・評価した結果をレジюмеにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。	
		10週	口頭発表・レポート作成（3）		課題図書の指定箇所について分析・評価した結果をレジюмеにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。	

		11週	口頭発表・レポート作成（４）	課題図書の指定箇所について分析・評価した結果をレジュメにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。
		12週	口頭発表・レポート作成（５）	課題図書指定箇所について分析・評価した結果をレジュメにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。
		13週	口頭発表・レポート作成（６）	課題図書指定箇所について分析・評価した結果をレジュメにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。
		14週	口頭発表・レポート作成（７）	課題図書指定箇所について分析・評価した結果をレジュメにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。
		15週	前期末テスト	学習内容について、自宅学習を踏まえ設問に解答できる。
		16週	前期末テスト返却	採点結果と答え合わせを踏まえ、自己の問題点を発見し、解決できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	4	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	4	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	25	0	0	10	15	100
基礎的能力	50	25	0	0	10	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0